

---

❖ 講 演 会 ❖

---

龍谷大学世界仏教文化研究センター学術講演会

韓国における日本浄土教の研究動向

2018 年 7 月 16 日（月）16：45～18：15

龍谷大学大宮学舎 西翼 2 階大会議室

---



会場の様子

（龍谷大学大宮学舎 西翼 2 階大会議室）

---

❖ 講 演 会 の 概 要 ❖

---

2018 年 7 月 16 日（月）、学術講演会『韓国における日本浄土教の研究動向』が開催された。はじめに、発表者の金浩星氏（韓国 東国大学校佛教大学佛教学部教授）によって、18～19 世紀の韓国では「三門修行」として禅や華嚴とともに念仏も行われていたことが述べられた。しかし、現在は説法の内容等も禅が中心となり「念仏信仰」「浄土信仰」は忘却されつつあるという。また韓国の学界において現在、浄土思想の専門的研究者はほとんどいないということが述べられた。

そのような中、金氏は現在、浄土世界を信じることのできない現代人を説得するための論理を、親鸞と一遍に見出し、考察を行っているという（『近年韓国に紹介されている日本の浄土仏教』南山宗教文化研究所 研究所報、第 28 号 2018 年参照）。

また、金氏同様、日本の「浄土信仰」の研究を行っている元永常氏は、法然と親鸞の浄土思想の共通点と相違点を「修行」と「悟り」すなわち、禅仏教に近い立場から研究を行っているという。

韓国において浄土仏教の研究への関心はまだまだ希薄であるが、現在東国大学では、金氏の周りには多くの学生が集い、研究会なども開催されていることから、今後新たな展開が予測される。



金浩星氏

（韓国・東国大学校佛教大学佛教学部教授）

【文責】 龍谷大学世界仏教文化研究センター博士研究員 唐澤太輔